

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬科学専攻
博士前期課程 2 年次生
謝 晉頤

1. はじめに

国際交流基金の助成を受け、7 月 10 日から 2 日間ソウルで開催された第 2 回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ (2nd KJYSP) に参加したので、自分の研究テーマについて報告する。

2. 学会について

第 2 回日韓若手薬剤学研究者ワークショップは、日本と韓国両国の若手研究者がコミュニケーションをとるための機会を提供することを目的とし開催された。このワークショップでは、業者や大学の先生の講演と、学生も含めてのポスター発表が行われた。講演者のテーマは主に薬物代謝、動態や DDS についてであった。

3. 学会の様子

第 2 回日韓若手薬剤学研究者ワークショップは、淑明女子大学で開催された。私は “Phytoglycogen as a potential additive to prepare rifampicin dry powder inhalers with fine inhalation properties” というテーマでポスター発表を行った。韓国人やタイ人の先生や学生と、各自のテーマについての質疑応答・意見交換を行った。今回の学会発表は私にとって 3 回目であり、これまでの学会での英語の発表経験を活かすことができ、外国の方とのコミュニケーションは円滑に進んだ。



写真 1 淑明女子大学

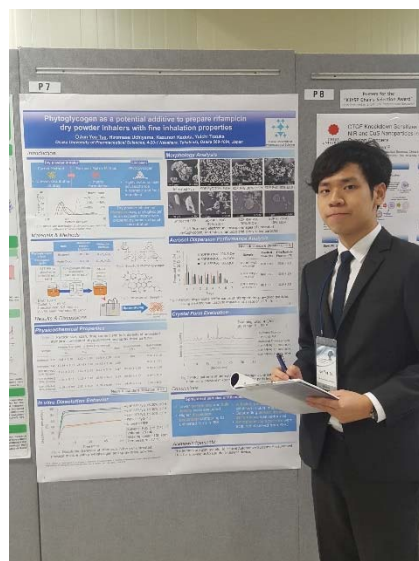


写真 2 発表ポスター前にて

4. 韓国について

韓国滞在中の空き時間を利用し、世界遺産の景福宮を観光した。景福宮は大変広く、宮殿は壮大で、韓国の歴史を感じることができた。その日の天気はあいにくの雨であったが、雰囲気浸って楽しむことができた。また、韓国文化を味わうため、参鶏湯という薬膳料理を頂いた。参鶏湯とは、鶏肉に高麗人参、もち米などを入れて煮込んだスープであり、口にするると疲労が回復した。



写真3 景福宮の宮殿にて



写真4 参鶏湯

5. 最後に

この度、国際交流基金助成事業の助成金により、第2回日韓若手薬剤学研究者ワークショップに参加し、自身の研究に関連する知識を深めるとともに、他国の製剤関係の人と交流するという貴重な経験を積むことができた。また、韓国の観光地景福宮を訪れ、参鶏湯を頂き、韓国の歴史の深さを感じた。

最後に、このような機会を与えてくださった、戸塚裕一教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝の意を表し、報告とさせていただきます。